

経営比較分析表（平成28年度決算）

和歌山県有田市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	対象	ド訓	救感災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
29,250	14,675	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

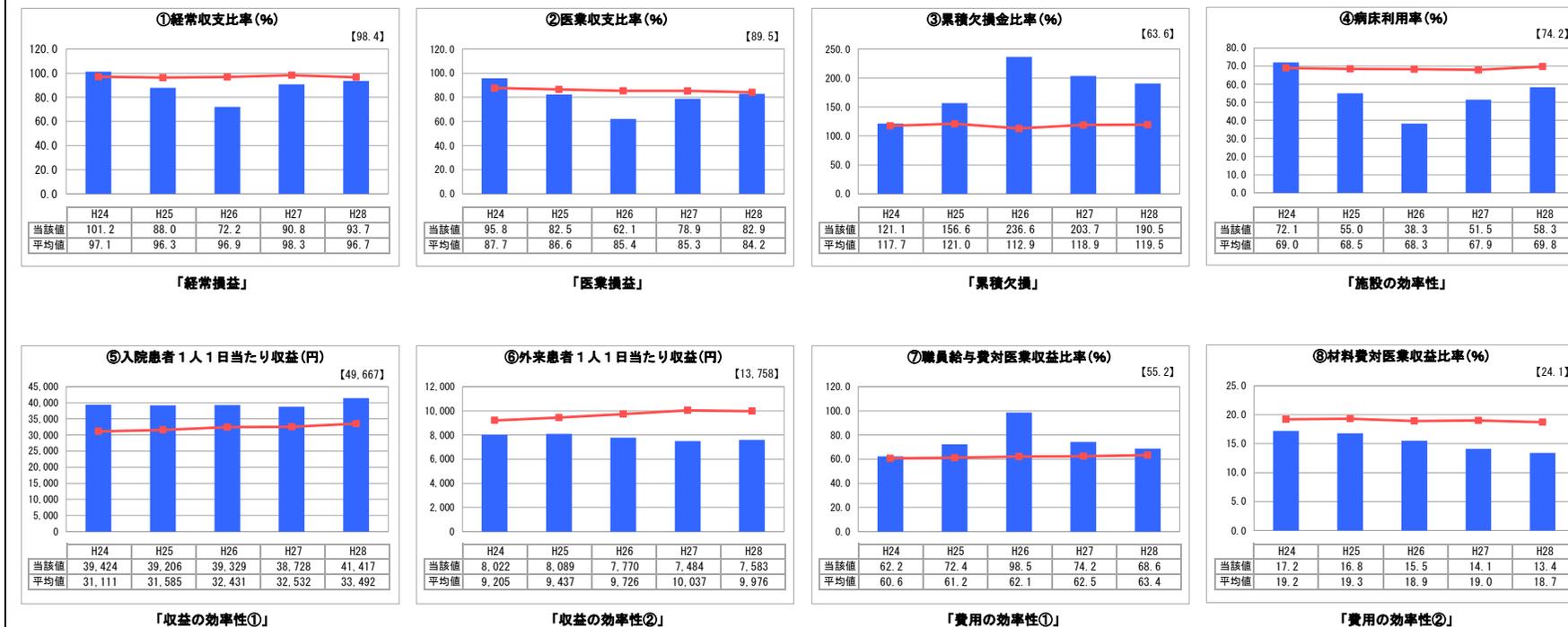
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
153	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	157
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
153	-	153

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

I 地域において担っている役割

- ・平成28年度から救急受入体制を強化、医療圏の2次救急の中核的な役割を担っている。
- ・災害拠点病院として災害時における患者受け入れ及びDMATの派遣を行っている。
- ・平成25年9月以降常勤医師の減少で分娩を休止していたが、平成29年度からは産婦人科の常勤医師を増強することができ、分娩の再開を予定している。
- ・小児科常勤医師の確保も目指し、地域における周産期医療の充実に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成25年度以降、経常収支は赤字となっており、早期の経営改善を要する状況となっている。平成27年度以降は、医師確保をはじめとした増患増収対策を図り、徐々に経営は改善に向かっていくが、未だ黒字化には至っていない。

これまで、病床機能の転換、病診連携の強化などで病床利用率の向上を図り、また、救急強化、認知症への取り組み、ベッドコントロール、手術件数の増加による診療単価の増加を図ってきた。また、費用面においてもジェネリック医薬品使用率の向上による材料費引き下げ、医事業務等の委託による効率化に取り組んでいる。

2. 老朽化の状況について

昭和25年に開設以来、地域の医療ニーズに合わせ増築を行い現在に至る。直近では平成3年から平成6年にかけて大増築工事を行ったが、現在は建物の老朽化がかなり進んでいる状況となっている。

また、医療機器等への投資においては、院内の機器選定委員会において採算性を精査し、緊急性の高いものから行っているが、電子カルテを含め更新時期の近いシステム、機器もあり全国平均に比べ高い老朽化率となっている。

今後は、経営の黒字化に向けた取り組みを継続し、病院の建て替えも院内で十分に協議し改善を図っていく。

全体総括

公立病院としての使命である不採算部門（救急・周産期・災害）を担うことで地域医療への貢献を果たすことを基本とし、有田医療圏における今後の人口推移および高齢化による医療需要の変化を予測し対応を行っている。

具体的には、救急医療の強化を進め、また、地域包括ケアシステムの中で、地域中核病院としての役割を十分に果たしていく。そのうえで効率性の良い経営を実現するべく経営改善に取り組んでいく。